

らくだ図書館

常木らくだの小説投稿ブログ

常木らくだ

こんにちは、らくだです。

4月締切の賞へ応募された皆様はお疲れ様でした。
自分はすでに報告した通り、えんため大賞へ投稿しました。

今月もGA前期などの締切がありますね。
参加予定の方々は月末まで頑張ってください。

さてさて。
毎月恒例となったパブー版の紹介です。

【らくだ図書館（52）】
<http://p.booklog.jp/book/106652>

早いもので電子書籍版も52冊目となりました。
これからも細く長く地道に続けていこうと思います。

それにしても、今一番気になるのは、カクヨムのエッセイの件。
応募要項を全力待機中なのですが、いつごろ発表されるんでしょうね。

仮に前回の小説コンテストと一緒に、規定文字数は10万字以上になるわけで、エッセイでそれは多すぎると思うんですが、その方が参加するライバルが減って、個人的には嬉しいかなーみたいな？（本音）

いずれにせよ、規定が何文字であれ執筆準備はできているので、早く発表されて欲しいと願いつつサイトの更新をチェックする毎日です。

とにかくまあ、そんなわけで。
気候も温かくなってきましたし、エッセイの準備をしつつ、今月も頑張りたいと思います。

カドカワ BOOKS レーベルが、4月28日より、持込みの受付を開始しました。

持込みといっても出版社を訪問するのではなく、ウェブ小説の URL を送信する方式ですが、これは作品を売り込むチャンスと言えそうです。

詳しくはリンク先参照。

応募方法や注意事項が記載されています。

【カドカワ BOOKS Web 小説の書籍化立候補募集！ 応募フォーム】

- ・ 小説投稿サイト、ブログ、個人サイトなど、掲載媒体は問わず
- ・ 現在ウェブ上で読める状態になっている作品に限る
- ・ 文字数は 10 万字以上 or 3 万字以上で今後 10 万字を超える予定の作品
- ・ 商業未発表の作品のみ対象、セルフパブリッシングは対象外
- ・ 一人の持込み数に制限なし

さっそく応募フォームを確認したところ、必要な情報は名前・メールアドレス・作品を掲載している URL の 3 点のみで、誰でも気軽にチャレンジできそうです。

そういうわけで。

自分も参加したいのですが、カクヨムの作品は、つい先日取り下げたばかり。

なので今は無理ですが、いずれは公開に戻す予定なので、その際に応募してみようかなと思います。

もちろんこれは「立候補」なので、送ったからといって採用されるとは限りませんが、チャンスを貰えるのは投稿者にとって有り難い話ですよ。

他のレーベルでもこういう取り組みがもっと増えて欲しいです。

こんにちは、らくだです。

今まで郵送投稿だったコバルト短編賞が、4月25日より、ウェブ応募の受付を開始した模様です。

詳細は下記リンク先参照。

現在は第184回分を受付中で、締切りは6月10日（金）です。

【短編・応募要項】

<http://cobalt.shueisha.co.jp/write/newface-award-apply/>

長編の方は以前から可能でしたが、短編もウェブ応募できるようになり、さらに挑戦しやすくなりそうですね。

あと応募要項のトップに、「最終候補作品もすべて掲載！」と書いてあって、個人的にはそれが朗報。

講評だけでも役に立つ部分は多いですが、本文とあわせてチェックするとより勉強になりますし、掲載作品はどんどん増えて欲しいです。

それからコバルトと言えば、「桑原水菜プロデュース・短編お題小説新企画」の締切りが、5月12日（木）に迫っています。

【新企画・応募要項】

<http://cobalt.shueisha.co.jp/write/produce-kuwabara-apply/>

こちらは今のところ郵送投稿のみですが、この流れで行くと今後はウェブ化されそうですし、短編賞と共に盛り上がって欲しいです。

以上、コバルト短編ウェブ受付開始の話題でした。

こんにちは、らくだです。

4月25日が締切だった集英社ライトノベル新人賞ですが、早くも次回（10月25日締切分）の受付を開始しています。

その応募要項を見て気付いた点が……。

【応募要項】

<http://dash.shueisha.co.jp/award/detail.php>

評価シートの返信用封筒に関する説明で、【本名で敬称に「様」を記入すること】という、注意書きが記載されているんですよね。

自分は「宛」が正解と思っていたんですが、調べてみたら最近はそうでもないようで。相手の書き直しの手間を減らす目的で、自分で「様」を書く場合もあるんだとか。

ただしこれ、どちらが正解かは、参照元によって見事にバラバラ。

「自分に様をつけるなんて失礼だ」という意見もあれば、逆に「相手の手間を減らすのが気遣いだ」という意見もあり、どちらが正解・不正解という明確なルールはないようです。

というわけで、状況によって使い分ける必要がありそうですが、集英社ラノベ新人賞の返信用封筒に関しては、自分の本名に「様」をつけて送らしましょう。

まあウェブ投稿であれば、評価シートはメール（封筒不要）なので、まったく関係ない話なんですけどね（汗）

いずれにせよ一つ賢くなりました。

これから返信用封筒を書く際には、しっかり気を付けようと思います。

こんにちは、らくだです。

非常に今さら過ぎる気もしますが、今回は、ミライショウセツ大賞の紹介を。
すでに5期へ突入中ですが、最終締切は6月30日なので、今からでも間に合う賞です。

【ミライショウセツ部門】

<http://www.pixiv.net/novel/contest/mirai>

【テーマ部門】

http://www.pixiv.net/novel/contest/mirai_theme

ミライショウセツ大賞はpixivで開催中のコンテストです。
ミライショウセツ部門（内容フリー）と、テーマ部門（今のお題はネコ）があります。

字数については、書籍化に足りる分量が好ましいと書いてありますが、具体的に「〇〇字以上・〇〇字以下」というような規定はありません。

ただし、このコンテスト……。

さすがイラスト投稿サイトのpixivだけあって、表紙の設定が可能なので、そこがなろうやカクヨムとの大きな違いかなと。

多くの読者に読んでもらうには、小説の内容はもちろん魅力的な表紙を用意することも重要で、そこが特徴と言えそうですね。

以上、ミライショウセツ大賞の紹介でした。

pixivでは絵を見る専門の自分ですが、小説のコンテストは盛り上がりすぎて欲しいですし、結果にも注目していきたいと思います。

手作りクッション - 2016.05.06 Fri

横長サイズのクッションが欲しいのですが、理想的な大きさの物が見つからないので、思い切って自分で作ってみることにしました。

【材料】布、縫い糸、詰め綿、ファスナー

【材料費用】 700 円くらい

【制作期間】 2 日間

【サイズ】 30cm × 68cm



ミシンなんていうハイカラな道具はありません。

そのため全工程が手縫いですが、その割には、結構よくできた気がします。

ファスナーもこの通り。

縫い糸が若干見えているのはご愛嬌。



ところでこのクッション、縫い方は本返し縫いです。

大雑把に言うと「2 針分進んで 1 針分戻る」を繰り返す縫い方です。

行きつ戻りつするため、手間も時間も掛かるし、糸もたくさん消費するし、非常に面倒くさいです。

ただその分、本返し縫いは仕上がりが丈夫だし、玉がとれてしまっても糸が抜けにくいし、見た目もミシン

に近い出来上がりになるという利点があります。

この縫い方をしていると、自分の小説投稿みたいだなあーと、なんとなく思ったり。

まあ自分の小説投稿は、「2歩進んで3歩戻る」を繰り返し中なので、本返し縫いよりも遥かに遅い（むしろ後退している）なんです。

とにかく時間は掛かっても、着実に進んで行けば仕上がりは丈夫になるし、本返し縫いのように堅実な姿勢で投稿生活を続けたいと思った次第です。

以上、手作りクッションの話でした。

自作ゲーム部門の紹介動画 - 2016.05.07 Sat

こんにちは、らくだです。

えんため大賞の自作ゲーム部門ですが、応募作品を紹介する動画が、公式チャンネルで公開されています。

小説と直接の関係はないですが、えんため大賞に関する話題ということで、さっそくチェックしてきました。

今のところは4作品のようですが、締切はまだ割と先（6月30日）なので、これから増えていきそうですね。

【えんため大賞チャンネル】

<http://ch.nicovideo.jp/entameawards>

<感想>

RPG ツクール、マジすげえ……！

いや、自分は20年くらい前の状態しか知らなかったもので、ここ最近のツクールシリーズの進化に仰天しました（汗）

こんなゲームが個人で作れちゃうんですね。

応募作がこのクオリティって、ゲーム職人さんはさすがです。

それに対して自分が投稿している小説は、他分野の方々に「さすが」と褒められるようなレベルでは全然ないので、もっと精進が必要だな……と思いました。

ちなみに上のページの紹介動画ですが、今後も定期的に増えていくみたいです。

最終的にどれくらいの本数になるのか、公式チャンネルの更新を、これからもチェックしたいと思います。

うわあああ！

カクヨムブログが更新されてる！

【[「エッセイ・実話・実用作品コンテスト」開催決定！](#)】

というわけで。

エッセイコンテストの応募要項が発表されました。

- ・規定文字数 ⇒ 本文 5 万字以上
- ・開催期間 ⇒ 2016 年 6 月 1 日（水）～7 月 14 日（木）
- ・受賞作は賞金 20 万円 & 書籍化（本数制限なし）
- ・最終選考へ進むのは読者選考のランキング上位 30 作品
- ・さらに応募作を編集部が精読し、場合によっては最終選考へ追加

前回のコンテストの反省もあるのか、細かい部分が色々と改善されましたね。

特に、

- ・受賞作に本数制限がないこと
- ・最終選考へ進むのが上位何作品が明記されたこと
- ・ランキング外でも場合によっては最終へ進める可能性があること

この辺は前回不満だった部分なので、今回修正されて本当に良かったです。

これから小説のコンテストがある場合も、この改善は是非引き継いで欲しいです。

あ！

ちなみに自分ですが、予告通り参加します！

細かい部分はこれから考えていきますが、小説投稿への熱い想いが多いの方々へ届くように、全力で執筆に取り組みたいと思います。

電撃大賞からメールが来た！
まさか受賞連絡だったらどうしよう！

と興奮しつつ内容を見たら、「一年間投稿がなかったのでアカウントを削除しました」という、自動送信のメールでした。

ははは……。
そりゃそうだよね……。

こんな時期に受賞連絡が来るわけないし、そもそも自分、今年は電撃大賞に応募してないですし。

冷静に考えたら当然なのに、一瞬ドキッとしてしまった自分が本気で悔しく、修行が足りないと感じました。

さてさて。
前置きはこれくらいにして。

来年（2017年4月10日締切）の電撃大賞の応募要項が発表されました。

【応募要項】

http://dengekitaisho.jp/novel_apply.html

え、来年は送るかって？
他の賞で受賞するので、電撃には応募しません！

なんて強がっている割には、メールの内容を早とちりしてドキッとしちゃう、ウブで純情なワナビです。

……というオチを残しつつ、今回はこれで失礼します。

こんにちは、らくだです。

ウェブ拍手から情報を頂戴して気付きましたが、ルルル文庫が原稿の募集を中止した模様です。

慌てて公式サイトを確認したところ、4月26日に告知が出ておりました。

締切りが終わって終了ならまだしも、開催途中でいきなり中止する例は見たことがなく、ひたすら戸惑ってしまうばかりです。

【告知ページ】

http://lululubunko.jp/lightnovel/novel_oubo.html

- ・中止理由は運営上の都合
- ・すでに届いた原稿は5月末までに返却
- ・第2期の投稿作品は評価シートも一緒に送付
- ・ウェブ応募のデータについては責任をもって削除
- ・中止するのはルルル部門のみ、ガガガ部門は今後も継続する

<今後の可能性（想像）>

- ・もう新人は募集しない？
- ・先日始まった持込みに移行？
- ・リニューアルして新しい賞を開催？

ルルルは自分も何回か応募した経験がありますし、今回の告知にはひたすら戸惑うばかりですが、できればリニューアルして再開されて欲しいですね。

というわけで。

今回はルルル文庫の原稿募集中止の話でした。

こんにちは、らくだです。

次回の応募要項が発表された電撃大賞ですが、よくある質問のページも、細かい部分に追加や修正が入ったようです。

以下リンク。

全体的にウェブ応募に関する説明が増えていますね。

【よくある質問】

http://dengekitaisho.jp/novel_question.html

<ウェブ応募でファイルを間違えた場合、修正・削除はできる？>

一度アップロードした作品の修正・削除はできないので、正しいファイルを追加でアップロードするか、一度退会した上で改めてアップロードする必要あり。

⇒これは初耳情報でした。

同じ作品を再アップしたら、混乱を招きそうな気もしますが、追加で問題ないようです。

<空白は文字数に含まれる？>

あらすじに関しては空白は文字数に含まない。

小説原稿の本文は、ページ数のみ規定しているので、文字数は考慮せず。

⇒これも初耳情報。

あらすじは 800 字では足りない場合が多く、制限ギリギリまで書きたいので、空白がカウントされないのは朗報ですね。

自分にとっての新情報はこの 2 点ですが、他にも細かい規定が色々書いてあるので、投稿予定の方々はチェックしてみてもいかがでしょうか。

以上、電撃大賞のよくある質問の話でした。

こんにちは、らくだです。

例のカクヨムユーザーミーティングですが、5月9日（月）がエントリーの締切でした。

- ・ 想定を遥かに上回る数の応募があった
- ・ 抽選の結果は5月16日（月）までに連絡する
- ・ プロットはイベントの前々日の午前中までに提出

等々の情報が公式ブログに書いてあります。

【カクヨムブログ】

<https://kakuyomu.jp/info/entry/2016/05/10/180000>

これは抽選の倍率が気になるところ。

講演会だけならともかく、そのあと個別講評があるってことは、参加可能な人数はかなり限定されると思うんですが……。

あ。

ちなみに自分ですが、今回は応募を見送り。

イベント自体は魅力的ですが、交通費だけで2万円以上も必要な東京開催というのは、やはり大きなネックというか。

ただ、このブログのコメント常連さんが応募されたそうなので、その知らせに一気にテンションが上がりました。

当選するといいですね！

そして参加された際には是非感想を教えてください！

というわけで今回は、カクヨムユーザーミーティング、募集締切の話でした。

カクヨムの抽選結果 - 2016.05.13 Fri

こんにちは、らくだです。

カクヨムユーザーミーティングの当落ですが、本日 13 日（金）、応募者全員に抽選結果が通知された模様です。

発表は 16 日だと思ってましたが、作業が早く済んだのでしょうか。

【公式ブログ】

<https://kakuyomu.jp/info/entry/2016/05/13/200727>

応募宣言は結構見ましたが、自分の周囲の方々はみんな落選だったようで、仕方ないとはいえ残念です。

ちなみに公式ツイッターには、「予想を遥かに超える多数のご応募」、「本当に編集部がびっくりするほどたくさんの方にご応募いただきました」と書いてあるんですが。

いや……？

そりゃ殺到するに決まってるよね……？

プロの編集者の講演が聴ける上に、個別講評まであるんですから。

おまけに参加は完全無料ですし、すぐ行ける距離なら、自分も確実に応募してました。

というわけで、ちょっと見通しが甘いなと思わなくもないんですが、抽選結果が出た後にそれを言っても逆恨みなので、参加者が書いてくれるであろうレポートを楽しみに待とうと思います。

あとブログには、「今後も同様のイベントを開催予定」とありますからね。

もし今回のイベントが大盛況なら、次回以降は規模が大きくなるかもしれませんし、その為にも盛り上がって欲しいです。

カクヨム用の投稿エッセイを書くにあたり、これまでの落選回数を正確にカウントしたところ、なんと 135 回だという衝撃の事実が発覚。

あはは……。

まだ 2 ケタだと思ってたんだけどな……。

中には落選作を他の賞へ送った回数も含まれますが、それでも落選 135 回は尋常じゃないと思います。

というわけで、こんなオイシイ(?) ネタを使わない手はないので、作品のキャッチコピーに入れようと決意しました。

「落選 135 回の筆者が送る、自爆系小説投稿エッセイ！」

どうです？

どんな内容か気になりませんか？

怖いもの見たさでアクセス数を稼ぐスタイル。

それはまあいいとして、肝心の執筆の方も、順調に進んでおります。

前回の小説コンテストと違い、下限字数が 5 万字なので、プレッシャーも少ないです。

ちなみに今回は、毎日少しずつ更新というスタイルをやめて、コンテスト開始日に最初から最後までアップする予定。

なので 5 月中にすべて仕上げる必要がありますが、見通し的には間に合いそうなので、自分自身も楽しみながら気楽に執筆しております。

(原稿を落とすフラグ)

作品が公開された際には、よろしくお願い致します。

こんにちは、らくだです。

コバルトが新たな投稿企画を実施する模様です。
その名もホラー小説短編賞で、応募要項が発表されました。

【ホラー小説短編賞】

<http://cobalt.shueisha.co.jp/write/horror-award-apply/>

- ・ 7月3日（日）締切
- ・ ウェブ応募のみ受付
- ・ 規定字数は 10,000～30,000 字
(400 字詰原稿用紙で 25～75 枚程度)
- ・ 賞金は 5 万円
- ・ 入選作は Web マガジン Cobalt で公開

スプラッタでもクロードサークルでもオカルトでもゴシックでも怖い小説なら何でもオーケー！

と説明に書いてありますが、落選回数 135 回のワナビが語る体験談は、怖い話に入るでしょうか？

いや、仮に入っても応募しませんが（汗）
その怖い話はカクヨムエッセイに投稿するので。

というわけで、ホラーが苦手な自分は参加しませんが、枚数も短編～中編程度の適度な量ですし、ホラー好きの皆様はチェックしてみてもいいのではないでしょうか。

それにしても、こういう気軽に参加できるチャレンジ企画は、これからもどんどん増えて&盛り上がって欲しいと思います。

こんにちは、らくだです。

今回は5月1日以降に頂いたコメントへの返信です。

【ミーティング関西でもやるといいね】

ありがとうございます。

そうなるくらい盛り上がって欲しいです。

【無事えんため大賞応募できましたので、ぜひ発表楽しみましょうね】

ええ、是非とも。

一次発表は例年6月だったと思うんですが、ファミ通のブログを見たところ、「7月予定」と書いてあるんですね。

今から7月が待ち遠しいです。

【コバルトがホラーですか？ びっくりしました】

まったくです。

以前から定期的にホラーが載っていたので、何故だろうと不思議に思っていたんですが、実はホラー好きの編集さんがいたなんて……。

【エッセイコンテスト、らくださんを応援したくてカクヨムのアカウントをとりました】

あなたは天使ですか！

まだ開始前なのにアカウントを取ったなんて……。

ご期待に応えられるよう全力で執筆したいと思います（感涙）

以上、いつもありがとうございます。

コメントは非常に励みになりますので、これからもよろしくお願いします。

5月1日が締切だったスニーカー大賞ですが、応募要項を眺めていたところ、赤文字のこんな注意書きを発見しました。

【スニーカー大賞・応募要項】

<http://sneakerbunko.jp/award/boshu.php>

「一度投稿いただいた原稿の取戻しや上書きはできません。再投稿は禁止しておりますのでご了承願います」

電撃は追加アップロード可能（Q&Aより）ですが、スニーカーはこの通り、原稿の再投稿を赤文字で明確に禁止しています。

一口にウェブ投稿といっても、賞によって対応は色々ですね。

特にこのケースは正反対なので、しっかり注意したいところです。

ちなみにアップロードの失敗といえば、自分は某賞へ投稿する際、あらすじを間違えた経験があります。

その作品は改稿作だったのですが、「改稿後の本文」＋「改稿前のあらすじ」を送信してしまい、気付いたのは締切後だったという……。

ええい、問題ない！

ストーリーの大筋は一緒だからセーフだ！

と開き直ったのですが、一人だけ名前を変えたキャラがいた為、あらすじと本文で名前が違うという状況になりました（白目）

こんな失敗は自分以外しないと思いますが、ウェブ応募は手軽に投稿できるからこそ、郵送投稿よりミスしやすい側面がありますし、間違えないよう気を付けたいところです。

こんにちは、らくだです。

らくだ図書館は昨日の更新で 1600 回を迎えました。
皆様に愛されるブログを目指し、今後も日々精進して参ります。

さてさて。
今回はカクヨムブログの話題です。

【第 1 回カクヨム Web 小説コンテスト大賞発表に関しまして】

簡単にまとめると、各編集部間の調整に時間がかかっている為、最終選考が長引いているというお知らせです。

この説明を見てふと思ったんですが……。

ひょっとしてカクヨムコンテストって、「この作者は我が A レーベルが頂戴する」「いや、その作者は我々 B レーベルのものだ」「おい待て、C レーベルを忘れてもらっては困る」とかいう、ドラフト会議が発生するのでしょうか？

小説を投稿するこちら側としては、レーベルを選んで参加することはできないので、たぶんそういう流れになりますよね。

すでに落選済みの自分には関係ないですが、もし実際にそうだとしたら、なんだか熱いドラマだなあーと思いました。

なにはともあれ、最終発表は初夏。

カクヨム開催の初めてのコンテストなので、どういう形になるのか想像もできませんが、結果発表を楽しみに待ちたいところです。

こんにちは、らくだです。

今年もビーンズ大賞の読者審査員の募集が始まりました。

毎年3月末が締切のビーンズですが、こうして読者審査員の募集が始まると、そろそろ発表が近いなぁーと気が引き締まります。

以下、募集概要へのリンク。

【ビーンズ小説大賞】

<http://www.kadokawa.co.jp/beans/awards/>

- ・ ビーンズ文庫が大好きな方
- ・ 守秘義務を守っていただける方
- ・ ご自宅に原稿の送付が可能な方
- ・ 応募締切 2016年6月15日(水)
- ・ 読者選考期間 2016年7月上旬～8月上旬までの約1か月
- ・ 審査員に選出された場合のみ、6月下旬に編集部より直接連絡

ビーンズはCD-Rの添付が必要ですが、「ご自宅に原稿を送付」ってことは、紙原稿が送られてくるんですかね？

我々投稿者は原稿を送る側なので、選考する側の活動というのは、まったくもって未知の世界です。

というわけで。

今回はビーンズの読者審査員募集の話題でした。

もし仮に去年と同様のスケジュールなら、来月頭に1次発表があると思うので、そちらの更新も楽しみに待ちたいです。

こんにちは、らくだです。

コバルト短編小説新人賞ですが、2015年度の年間最優秀賞と講評が、公式サイトで発表されました。

対象となったのは第176回（Cobalt2015年7月号掲載）～第181回（Cobalt2016年5月号掲載）の入選作。

受賞された皆様はおめでとうございます。

【発表ページ】

<http://cobalt.shueisha.co.jp/write/newface-award-2015/>

【講評】

<http://cobalt.shueisha.co.jp/write/newface-award-2015-comment/>

そうか……。

コバルトが完全にウェブ化したから、今後は、最優秀賞もネットで見られるのか……。

それにしても、こうして詳しい情報が見られると、雑誌の時よりも新人賞がさらに身近に感じられますよね。

コバルト短編にはチャレンジした経験がないのですが、入選作品もバラエティ豊かですし、自分も挑戦してみようかなあ……なんて思いました。

それからコバルトと言えば、気になるのはノベル大賞。

これまでは雑誌のみ掲載の珍しい賞でしたが、雑誌がウェブ化したからには通過発表もウェブ化するはずなので、結果の更新を楽しみに待ちたいと思います。

こんにちは、らくだです。

最近ブログの更新リズムが乱れており、毎日楽しみに待ってくださっている読者様には、期待に添えず申しわけない限りです。

いるよね……？

毎日楽しみにしている読者さん、きっと一人くらいいるよね……？
(急に不安になって確認してみる)

それはさておき。

なんで乱れているかという、理由は単純明快で、カクヨム用のエッセイです。

コンテストの規定文字数は 50,000 字以上。

それに対して、らくだ図書館の記事は、一回あたり 500 字。

つまりエッセイコンテストへ参加するには、らくだ図書館 100 回分の記事をまとめて書く必要があるわけで、あまりの苦行に白目を剥いている毎日です。

いや。

実際は苦行ではなくて、好きでやっている行為ですし、完遂させる予定ですが。

とにかくそういうわけなので、今後もかなり更新が乱れると思いますが、無言でブログをやめたりはしないので、長い目で見守って頂けると幸いです。

ちなみに投稿エッセイの進捗ですが、すでにある程度の形はできており、いい感じに仕上がってきました。

公開まであと一週間少々ですが、きちんとした形で皆様へお届けできるよう、残り期間も頑張ろうと思います。

梅小路公園 - 2016.05.22 Sun

こんにちは、らくだです。

京都駅の西にある総合公園、梅小路公園へ行ってきました。

まずこちらは、入口の看板。

地図を見てもわかる通り、なかなか広大な敷地です。



梅小路公園自体は以前からありましたが、最近は敷地内に京都水族館や鉄道博物館などがオープンし、話題のニュースポットとなっています。

水族館の入口はこんな感じ。

雲ひとつない気持ちのいい青空ですね。



壁の奥はイルカショーの会場らしく、外観写真を撮っていると、楽しい歓声が聞こえてきました。

そちらも非常に気になりますが、今回の目的地は別にあるので、未練を残しつつ先へ進むことに。



こちらは市電ひろば。

昭和 53 年まで京都市内を走っていた、チンチン電車が展示されています。

しかもこのチンチン電車、ただ単に展示するだけでなく、カフェ・売店・休憩所として利用されているんだとか。



手前は売店の車両で、左はカフェの車両。
後ろにもう 2 両あって、そちらは休憩所です。

せっかくなのでカフェの車両へ行ってみると……。



電車の吊り革と思いきや、なんと正体はパンでした。

その名も「カタカタつりわぱん（250円）」。

味はシュガー、シナモン、ざらめ、岩塩、ごまの5種類です。



後ろには休憩用の車両が2両あり、買った商品をここで食べることも。

非常に暑かったので自分のかき氷を食べました。

かき氷って原料はただの水なのに、何故か食べたくなるんですよね。



車内の様子。

内装は当時そのまま、非常にノスタルジック。

路線図はもちろん、広告も昭和のまま！



というわけで。

今回は梅小路公園のチンチン電車の紹介でした。

次回は鉄道博物館の記事をお届けしたいと思います。

京都鉄道博物館（前） - 2016.05.23 Mon

今回は京都鉄道博物館（前）をお届けします。

まずこちらは、旧二条駅舎。

二条駅は今でこそ近代的なビルですが、以前はこんな建物だったのですね。

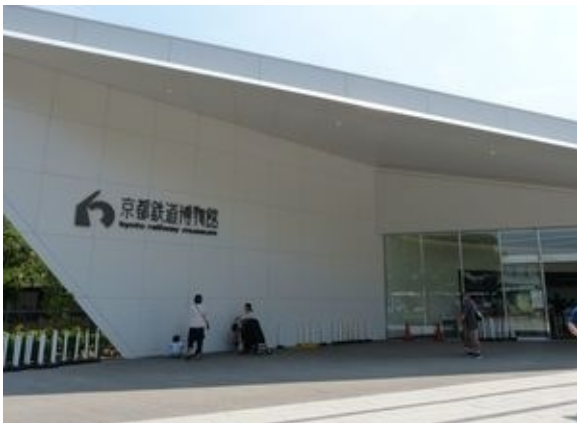


よし、さっそく見学するぞー！

と思ったらここは出口で入れませんでした（汗）

博物館の入口はこちら。

近代的で広々とした印象です。



一般の入場料金は 1,200 円。

張り切って入館すると、まずは屋外の展示が。

自分は電車に詳しくないですが、ずらりと並んでいると壮観です。



ちなみに写真はマシですが、さすがオープン直後（先月 29 日開館）だけあって、恐ろしいほどの混雑でした。

どれだけの混雑か説明すると、売店が入場規制されるレベル。
ゆっくり落ち着いて見たい場合、平日を狙った方が賢明ですね。



今は引退した 0 系新幹線。
新幹線に乗っても、真っ正面から顔を見る機会はずっとないので、なかなか新鮮です。

残念ながら車内へは入れませんが、ガラス越しに見学することは可能。



こちらは食堂車の様子です。
なんだか食堂車で食事って、不思議とワクワクしますよね。

列車は屋外だけでなく、屋内にも多数展示。
三階建ての吹き抜けなので、上から見るとより圧巻です。



あ！
一番奥は雷鳥ですね！

雷鳥は自分のイチオシです。
祖父母の家が北陸だったので、子供の頃よく乗った、思い出の深い特急列車です。



車内放送の前後に鉄道唱歌が流れるんですが、それを聞くと「やったー、新しい町に着いたぞ〜！」という気分になって、子供ながらに非常にワクワクしたものです。

その雷鳥で必ず飲んでいた、プラスチック容器のお茶。

今はペットボトルが普及したので、駅弁のお供だったプラスチック容器のお茶も、こういう博物館で見られなくなってしまいました。



というわけで。

今回は京都鉄道博物館（前）をお届けしました。

次回は引き続き、京都鉄道博物館（後）をお届けします！

こんにちは、らくだです。

今回は京都鉄道博物館（後）をお届けします。

屋外と屋内 1F は電車の展示ですが、2F には体験コーナーがありました。



こちらは運転体験シミュレーター。

なりきり用の運転士の制服まで完備されていました。

ん、これは……？

唐突に切符の券売機があるぞ……？



なんと「券売機を体験するコーナー」でした。

入手した切符は「自動改札機を体験するコーナー」で使用できます。

今さら過ぎるといふか、自動改札機は普段から使っていますが、一応体験してみました。



体験用の改札機はシースルーで、挿入した切符に文字が印字される過程が、（ほんの一瞬ですが）確認できます。

あ！

イコちゃん（JR 西日本のマスコットキャラ）だ！



続いては、行き先表示の体験コーナー。

時間や行き先を入力すると、その通りの表示が表れます。

ものすご〜く並んでいたもので、自分はチャレンジできませんでしたが、本物を使えるのは面白いですね。



さあ、次は……と思ったら、いきなりの駄菓子屋！

昭和の駅を再現したコーナーでした。
けん玉やら紙風船やら、懐かしい物ばかりです。



以上が 2F の様子（一部）です。

3F はスカイテラスになっていました。
目の前が京都駅という立地なので、電車の発着を見ることができます。



雲ひとつなく気持ちのいい青空！

目を凝らすと東寺が見えました。

新幹線と東寺の五重の塔、これぞ京都駅な風景です。



というわけで。

今回は京都鉄道博物館（後）をお届けしました。

暑さと混雑で少し疲れましたが、執筆の合間の、いい息抜きになったと思います。

こんにちは、らくだです。

カクヨムが以前から開催を告知していた、「漫画原作小説コンテスト」ですが、詳しい応募要項がついに発表されました。

以下、公式サイトへのリンク。

【応募要項】

https://kakuyomu.jp/contests/shonenace_contest

- ・賞金 100 万円
- ・ジャンルは自由
- ・プロ・アマ・年齢不問
- ・一人で 2 作品以上の応募も可能
- ・すでに掲載中の作品もエントリーできる
- ・オリジナル小説が対象、二次創作は応募不可
- ・未完結作品も応募対象となるが、3 万字程度の完結作品を推奨
- ・受付（読者選考）期間 2016 年 7 月 19 日（火）～2016 年 8 月 31 日（水）

ちなみに今回は、読者ランキングの上位作品だけでなく、編集部でピックアップした作品も最終選考へ進める可能性があるみたいです。

以前のようにランキングだけが指標だと、通過できないことが早い段階でわかってしまうので、編集部による救済は絶対にあった方がいいと思う……！（経験談）

以上、漫画原作小説コンテストの紹介でした。

自分はエッセイの方に全力を尽くすつもりですが、こちらは 3 万字推奨という割と短めなコンテストですし、皆様も参加を検討してみてもいいのではないでしょうか。

こんにちは、らくだです。

スニーカー大賞（11月締切分）の最終結果が発表されました。
今回は最終選考6作品中、3作が受賞した模様です。

以下、公式サイトへのリンク。
受賞された皆様はおめでとうございます。

【発表ページ】

<http://sneakerbunko.jp/award/index.php>

ところで、こういう発表ページには受賞者のコメントが載っていて、自分はそれをチェックするのが好きだったりします。

小説投稿ブログをやっているので、他の投稿者さんに興味があるのです。
具体的な苦勞などが載っていると、共感できて楽しいですからね。

しかしながら、途中まで受賞者の苦勞話に共感して読んでいても、最後に「この2年間頑張りました」とか書いてあると、ジェラシー爆発。

短すぎるわ！
さっきまでの共感を返せ！

いや、本当にもうね……。
先にデビューしていく皆様は、どうしてそんなに、スムーズに受賞できるのか……。

そういうわけで、不測のダメージを喰らう場合も多いですが、それでもコメントチェックは好きなので、これからも読み続けていくつもりです。

以上、スニーカーの最終発表の話題でした。

どうしよう……。

カクヨムエッセイが仕上がらない……。

というわけで、自分自身のテンションを上げるために、メニューに設置する作品バナーを作ってみました。

本当は原稿に向かうべきなんですが、精神的に追い詰められると、他の作業がしたくなるんですよね。

そういうわけで、ここにもペタリ。

作品タイトルを打ち込んで、上下を塗っただけですが、いい気分転換になりました。

らくだ図書館 (カクヨム版)

(まだリンクは貼っていません)

エッセイの作品タイトルは、『らくだ図書館 (カクヨム版)』。

カクヨム版とある通り、このブログ『らくだ図書館』とは、まったく違う内容です。

以前パブで期間限定公開していた『らくだ図書館スペシャル』とも異なります。

投稿を始めた理由などは何度書いても変わらないので、いくつか被っているエピソードもありますが、文章そのものはすべてエッセイ用に書き直しました。

なので、ここを最近知ってくださった方々はもちろん、以前からの常連さんにも楽しんで頂けるかなと思います。

というか、まだ原稿が仕上がっていない状態なので、楽しんで頂けるようにこれから頑張ります…… (汗)

以上、カクヨムエッセイ参加の告知でした。

こんにちは、らくだです。

文学フリマ短編小説賞の特設ページが公開されました。
応募要項も発表されているので、参加予定の皆様は要チェックです。

以下、特設ページへのリンク。

【文学フリマ短編小説賞】

<http://buntanpen.hinaproject.com/>

- ・ 応募締切 2016年6月30日
- ・ 結果発表 2016年9月上旬
- ・ 期間内に新規投稿された作品が対象
- ・ 4万字以下の完結した作品であること
- ・ 「異世界転生」「異世界転移」の要素がないこと

受賞作は小説家になろうが発行する同人誌に収録。
その同人誌は下記の文学フリマで販売されるようです。

- ・ 2016年9月18日（日） 第4回文学フリマ大阪
- ・ 2016年11月23日（水） 第23回文学フリマ東京

見た感じ賞金や賞品はない模様。
受賞が商業デビューに繋がるわけでもないみたいです。

というわけで、あくまで同人誌に掲載する企画のようですが、字数も40,000字以内と中編程度の量ですし、ご興味のある皆様はチャレンジしてみてもはいかがでしょうか。

以上、文学フリマ短編小説賞の話題でした。

こんにちは、らくだです。

来年のえんため大賞の募集が早くも開始。

ウェブ応募はまだ受付していませんが、紙原稿はすでに投稿できるみたいです。

【ファミ通文庫部門】

<http://www.enterbrain.co.jp/entertainment/famitsubunko.html>

【ビーズログ文庫部門】

<http://www.enterbrain.co.jp/entertainment/bslogbunko.html>

【ビーズログ文庫アリス部門】 (NEW!)

<http://www.enterbrain.co.jp/entertainment/bslogbunkoalice.html>

応募要項をチェックして驚いたのですが、次回からは、ビーズログ文庫アリスが独立する模様です。

結果的に、

- ・ ビーズログ文庫部門 ⇒ 従来通りの恋愛ファンタジー作品
- ・ ビーズログ文庫アリス部門 ⇒ より幅広い感覚で楽しめる現代的な作品

こういう感じの住み分けができそうですね。

(※あくまで個人的な理解です)

恋愛ファンタジー以外の女性向け作品は、今まで新人賞の受け皿が少ないような印象だったので、アリス部門には盛り上げて欲しいです。

以上、ビーズログ文庫アリス部門の新設の話題でした。

締切は来年なのでまだ遠い先ですが、自分も応募してみたいと思います。

こんにちは、らくだです。

昨日 5 月 29 日（日）に開催された、カクヨムユーザーミーティング。
そのレポートがカクヨム公式ブログにアップされました。

[【カクヨムユーザーミーティング】を開催いたしました】](#)

- ・ 応募者数 229 人
- ・ 参加人数 40 人
- ・ 当選倍率 約 17.5 %

具体的な応募者数も発表されました。

当選率は 17.5 %というなかなかの数字で、落選報告ばかり目にしたのも頷けます。

<イベント内容>

- ・ KADOKAWA の現役編集者によるトークイベント
- ・ 編集者による講評と個別アドバイス
- ・ ユーザーヒアリング、カクヨムのアンケート
- ・ 参加者全員へカクヨム特製ボールペンをプレゼント

参加された皆様のレポートを検索して読んでみましたが、あくまで講演と講評がメインで、参加者同士が交流できる感じではなかったみたいですね。

ただ、全体的にはとても勉強になったという意見が多いので、今後のイベント開催に是非とも期待したいところです。

というわけで、カクヨムユーザーミーティングの話題でした。

まだ少し書きたいと思うことがあるので、次回も引き続き、この話題をお送りしたいと思います。

こんにちは、らくだです。

引き続きカクヨムユーザーミーティングの話題です。

詳しい内容が知りたくて検索したら、詳細レポートをアップしてくれている参加者さんが、カクヨム上にいらっしゃいました。

イベントの内容や会場の雰囲気はもちろん、司会のお姉さんの服装まで載っています。

【カクヨムユーザーミーティングレポート】

このレポートに書いてあるのですが、編集者がウェブ上で作家を探す時は、その作家の小説作品のみならず、近況ノートやらツイッターやら、そういう文章も参考にするということです。

それなら……！

是非らくだ図書館を読んで、ワイに声をかけてくれ……！

と大声で叫びたい気分ですが、そもそも自分の場合は小説がショボいので、作者の情報を検索する気にならないんだろっていうね。

そういうわけで、小説以外の情報発信も大切ですが、小説が面白いのはそれ以前の大前提であり、ブログばかり頑張ってもダメなのだという教訓(?)を手に入れました。

以上は一例ですが、他にも色々と参考になる話が載っているので、ミーティングの内容を知りたい方にオススメしたいレポートです。

というわけで、カクヨムユーザーミーティングの話題（後）でした。

明日はいよいよエッセイ公開なので、皆様に少しでも楽しんで頂けるよう、最後の仕上げを頑張ろうと思います。